

謎の山城

きたのしょうじょう

近江

北之庄城

(岩崎山城※)

北之庄城

※「岩崎山城」の名称からの類推で北之庄山(254m)を岩崎山とする誤解がありますが、現在の岩崎山は城跡北の278m峰です。



北之庄里山を守る会

「土のお城」が面白い！

曲輪・土塁・切岸・堀切・空堀・土橋・虎口...



北之庄城(岩崎山城)

・所在地: 滋賀県近江八幡市北之庄町・南津田町

北之庄山(254m)山頂部

・築城時期: 室町～戦国時代

・城主: 河端(八幡)義昌※
(観音寺城の付城)
※「淡海温故録」による

謎?

名前は「七つ」でも城跡には池が「6つ」

「中世山城のろし駅伝」参加城

「のろし展望台」

北之庄城縄張之図
〔城跡イラストマップ〕

乾櫓台

西虎口

七ツ池

南櫓台(のろし展望台)

北虎口

大堀切

長櫓台

土橋

七ツ池

東枡形虎口

謎?

「近江温故録」(江戸前期)記載の「岩崎山の城」は何処に?

謎?

中世の山城に織豊系城郭の特徴とされる枡形虎口が!

近江の城五十選「謎の城」

大堀切

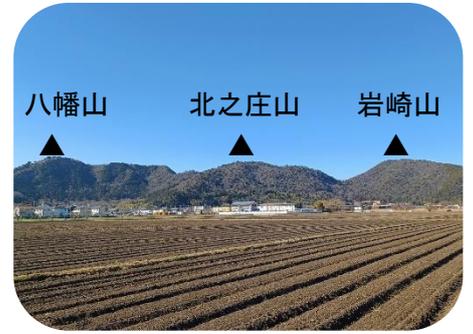
2024年7月
北之庄里山を守る会
滋賀県近江八幡市北之庄町

内枡形虎口

<http://www.za.ztv.ne.jp/kitasatoyama/>

北之庄城って？

北之庄城は、八幡山から北東に尾根続きの北之庄山(254m)の山頂部に築かれた中世の山城です。八幡山縦走路の中央部、八幡山(271.8m)と岩崎山(278m、望西峰ともよばれる)の中間に位置します。山を削り、土を盛って築いたいわゆる「土のお城」です。高石垣を巡らしたお隣の「石のお城」の八幡山城とは好対照です。城跡には今も曲輪、土塁、堀切、切岸、空堀、土橋、櫓台、虎口などの遺構が大変良好な状態で残り、見ごたえがあります。



東から望む八幡山の山系

城跡へはどこから？

城跡へは、①北之庄神社登山口(下図)、②列景図登山口(第1休憩所で①と合流)、③打越・岩崎登山口(打越の鞍部で岩崎山からの縦走路と合流)が直接通じる他、④八幡山縦走路(南)経由(八幡山から)、⑤八幡山縦走路(北)経由(百々神社から)の5ルートがあります。

おすすめは、最短で、よく整備された①北之庄神社登山口ルートです。途中2か所、展望のよい休憩所もあり、上段曲輪まで30分ほどで到着します。神社の石段を上って右奥が登山道です。尾根道合流点の「城跡説明板」からは5分程度です。①大堀切・空堀・土橋とその上の②のろし展望台からの絶景、謎の③七ツ池・④東櫓形虎口などの見どころをコンパクトに巡回できます。

北之庄神社登山口ルート

城跡入口まで所要30分

トノ山(八幡山)分岐

上段櫓台「のろし展望台」

大堀切

水茎岡山城展望

土橋

第三休憩所

城跡説明板

西の湖、北之庄沢展望

観音寺城、瓶割山城展望

縄張之図イラスト

第二展望休憩所

八幡市街展望

第一展望休憩所

西の湖、北之庄沢展望

列景図

きたのしょうじんじゃ
北之庄神社登山口

北之庄神社

石段上の小屋の右手を木立の中へ

れっけいず
列景図登山口

八王子保育園手前の竹やぶの中(列景図)へ

「謎の山城」歴史・城主は？

この城の成立に関しては、同時代資料が見つかっておらず、詳しい歴史は分かりません。「謎の山城」と呼ばれる所以です。江戸時代の八幡山を描いた絵図に「佐々木六角の付城」と記され、また江戸前期成立の「淡海温故録」に、「六角崇永(氏頼)〔南北朝時代の武将〕が岩崎山に城を築き在城」「六角氏綱〔戦国武将〕の二男八幡(河端)左馬頭義昌が後口の岩崎山に在住」との記述があります。

岩崎山(278m)*に「岩崎山城」がない？…上記文献にいう「岩崎山」の所在については長らく未確定でした。研究者によって八幡山とする考えもありましたが、廣田平治氏(本会顧問)が多年の調査に基づき最初に〔北之庄城＝岩崎山城〕であることを明らかにして以来、氏の考えが広く認められています。
 ※少なくとも明治以降、現ヴォーリス老健センターの裏山(278m)が岩崎山と呼ばれています。

城跡の見どころは？

城跡は尾根ぞいに南北にのび、南の上段曲輪と北の下段曲輪、それをつなぐ中段曲輪からなります。上段は、およそ50m四方の正方形、中・下段曲輪は、長辺200mの長方形で、周囲を厚い土塁が囲んでいます。

上段曲輪の南は、大堀切と空堀で尾根筋を断ち切り、土橋がかかります。土橋を上った先が、一段高く櫓台(現「のろし展望台」)です。櫓台からは、西に水茎岡山城、東に観音寺城、南に瓶割山城を望めます。

上段曲輪の北に虎口が開き、中段曲輪の中央部を下段曲輪につながる通路が通じます。下った先が下段の最下部で「七ツ池」と呼ばれる6つのくぼ地が並び、城の用水池(水の手)と考えられています。下段の北東と北西の隅は、一段高く櫓台(狼煙台とも)になっています。

下段の西、北、東には、城外へ通じる虎口が開きます。特に東虎口は、高さ3mを超える土塁により完全な内枳形を形成します。大堀切とならぶ城跡最大の見どころであると同時に、中世の山城に新しい形式(織豊系城郭の特徴)の枳形虎口の存在は、大きな謎です。



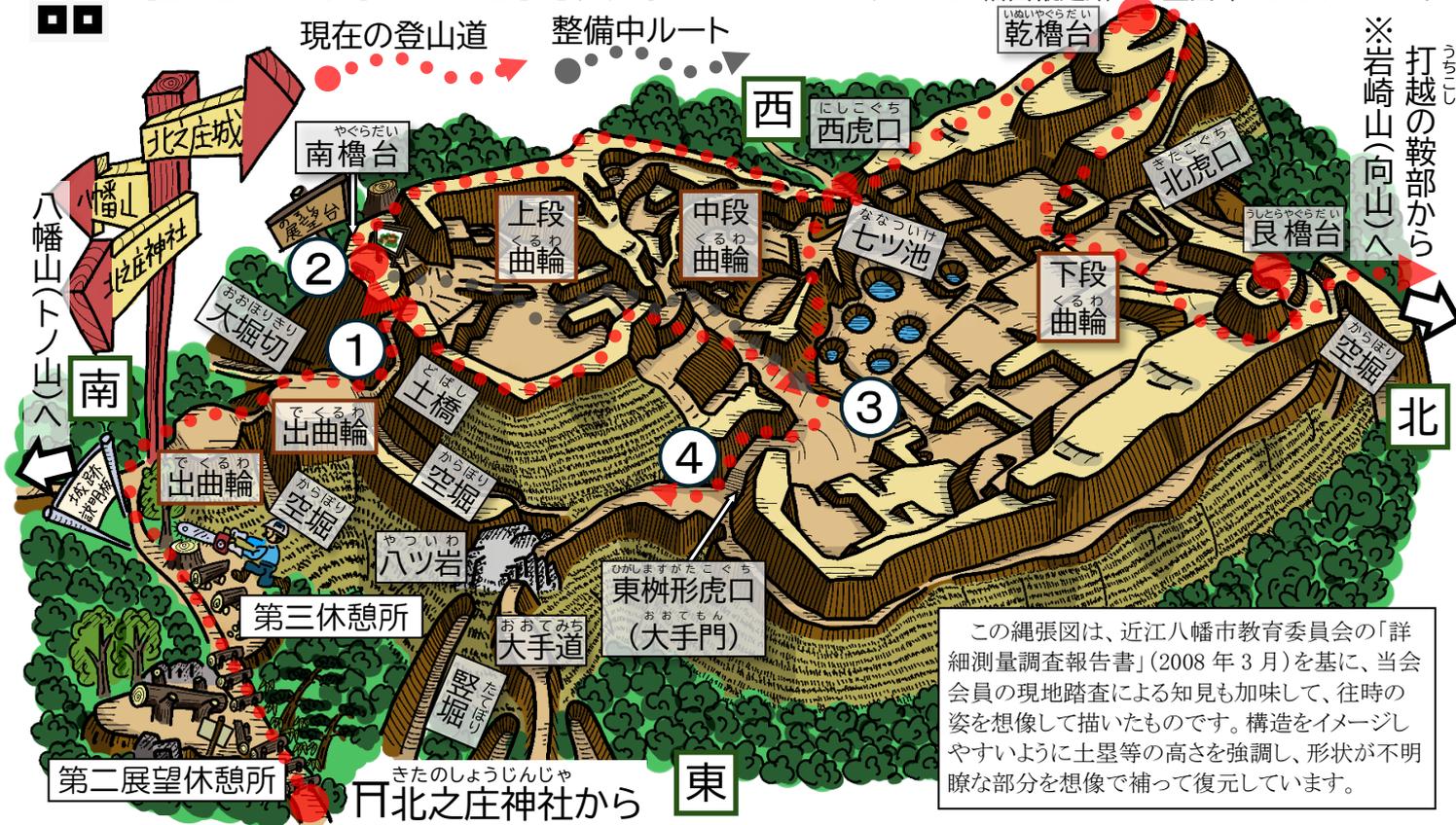
東虎口の枳形内から城外方向を見る

城跡見どころ四選

- ①堀切・空堀・土橋～山城らしい堅固な守りの仕組みがよくわかります。
- ②上段曲輪の櫓台(北之庄山山頂)から～水茎岡山城方面の絶景が望めます。土塁の上から見下ろす深い堀切は迫力満点です。
- ③七ツ池～城の水の手と考えられるくぼ地が6か所ならんでいます。
- ④東虎口～大手門らしい立派な内枳形の構造が完全な形で残っています。

北之庄城縄張之図(城跡イラストマップ)

※八幡山縦走路では望西峰とよばれています



この縄張図は、近江八幡市教育委員会の「詳細測量調査報告書」(2008年3月)を基に、当会会員の現地踏査による知見も加味して、往時の姿を想像して描いたものです。構造をイメージしやすいように土塁等の高さを強調し、形状が不明瞭な部分を想像で補って復元しています。

